

水稲の高温対策について

作成：J A 兵庫六甲

監修：神戸農業改良普及センター

阪神農業改良普及センター

令和7年も観測史上最も早い梅雨明け（気象庁より）となり、日平均気温も高いことから、ここ数年以上に高温対策が求められます。生育が前倒し傾向であるとともに、高温対策として有効とされる対策についてまとめておりますので、参考にしてください。

①耐暑肥（たいしょごえ）について

耐暑肥とは・・・高温により不足する養分を出穂前に補う施肥のこと

※分施肥体系と省力体系（一発肥料）のいずれでも有効です。

出穂期における追肥が、白未熟粒（基部未熟、乳白等）の品位改善に有効であるとされており、他県では高温対策として試験が進んでおります。

<耐暑肥の施肥目安>

時期：出穂5日前 肥料：有機入り242

施肥量：8～10kg / 10a（窒素成分1kg程度 / 10a）

※過剰施肥は食味低下を招く恐れがありますので、ご注意ください。



②水管理について

・飽水管理で水温や地温を下げる品質向上を目指しましょう。

今年の気温は平年より高く、ほ場内の水温や水温も高くなっています。高水温は水稲の生育に悪影響を及ぼすため、「夜間かけ流し」が有効ですが、都合で実施できないところも多いと思われます。

そこで、気温の低い朝夕に水を入れ替え、地温や水温を下げ、常にほ場を湿った状態に管理する飽水管理（間断灌水）を実施し、良食味米生産につなげましょう。